

第5学年国語科学習指導案

指導者 田坂 郁哉

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年・組 第5学年B組(32名)

3 単元名 物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合おう
「たずねびと」

4 単元の目標

(1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

【知識及び技能】(1)オ

(2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1)オ

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【綾の変化を想像してたずねびとスライドショーを作ることを通して、考えを伝え合おう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	① 進んで人物像や物語の全体像を叙述を基に想像し、学習課題に沿って、考えたことを友達に伝えようとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、7月教材「カレーライス」を題材として「読むこと」の学習を行った際、登場人物の人物像や物語などの全体像を捉えるために、言語活動として台本作りに取り組んだ。この活動を通して、児童が主体的に話し合いを行い、楽しみながら学習を進める姿が見られた。また、台本を作るために、児童が自然と物語の叙述に着目して考えることができるようになった。一方で、グループが主体となって活動を行うため、物語の全体像について児童が具体的に想像したことを深めたり、言語化したりする点が不十分であるという課題が残った。

国語科学習アンケートにおいて、「国語科の学習で、友達の考えを聞いて、自分の考えをまとめることができますか。」という質問について肯定的に自己評価している児童の割合が、51.5%に留まり、ほかの質問事項と比較して、特に低い水準であった。この結果から、自分の考えをまとめることに苦手意識をもっている児童が多いことがうかがえる。実際の授業においても、個人では自分の考えをもつまでに時間がかかったり、考えることをあきらめてしまったりする児童がいる。

語感や言葉の使い方については、自分の考えたことを書いたり話したりする際に、よりよい表現を選んだり、語感を意識して自分の考えを的確に表現したりすることができる児童は少ない。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を設定している。これは、中学校第1学年では、「目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること」へと発展していく内容である。

本教材は主人公の楠木綾が原子爆弾の影響で亡くなってしまった同じ名前の「楠木アヤ」のを知り、実際に広島市を訪れて原子爆弾の実相を知ったり、被爆者の話を聞いたりすることで、平和についての考えを深めていく物語である。

本川小学校の児童にとって身近な場所が登場し、そこに同じ年齢の楠木綾が訪ねてくるということで、物語の内容を想像しやすい。これまでの平和学習で児童自身が感じたことを思い出し、楠木綾と自分自身の思いを重ねながら読むことで、児童の平和についての考え方も深めながら学習を進めていきたい。

また、物語が綾の一人称で書かれていることで、綾の気持ちが彼女を取り巻く様々なものに投影され、情景描写などの叙述に何度も表れる。物語の全体像を捉えるためには、綾の気持ちが表れている叙述を捉えて、「綾」の変化を追っていくことが必要になる。「綾」の変化を追っていくことで、場面の移り変わりも捉えることができ、全体像を想像することができる教材である。

(3) 指導観

本単元は、指導事項「C読むこと」(1)エを受けて「綾の気持ちの変化を捉えて、物語の全体像を具体的に想像する力」を身に付けることに重点を置いて指導する。物語の全体像を具体的に想像するためには、様々な人や場所との出会いごとに「綾」の変化(気持ち・行動・考え方など)を捉え、その変化をつなぎ合わせていくことが必要だと考える。そのために、本単元では【綾の変化を想像してたずねびとスライドショーを作ることを通して、考えを伝え合おう】という言語活動を設定する。

まず0次では、作者である朽木祥さんの本や戦争に関連する本を、学校司書に紹介してもらい、「たずねびと」と同じようなテーマを取り扱った本を読み広げる活動を行う。

一次では、初めに物語を読んで感想を書く。その際、疑問に感じたことを基に話し合い、単元を通して考えていく「なぞ」を児童がもつことができるようにする。児童が自らで立てた「なぞ」について単元を通して考えていくことで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにしたい。「なぞ」は1つに絞ることはせず、場面ごとにいくつか設定してもよいこととする。次に、物語で綾が会う様々な人物や場所を整理し、「たずねびとマップ」を作成する。作成に当たっては、物語の叙述を基に綾が会う人物や場所を付箋に書き、模造紙に順番に沿ってまとめていく。そして、出会った登場人物はどんな人物か「プロフィールカード」にまとめ、マップに表す。綾の行動に沿って人物や場所を整理することで、児童が物語の流れが一目で分かるようになり、マップの中に単元を通して考えていく「なぞ」も書き込むことで、それがそのまま学習の見通しになる。

二次では、「たずねびとマップ」を基に場面に沿って、様々な人や場所と出会ったときの綾の心情を想像し、「綾スタグラム」の投稿画像に合わせた音声を録音する活動を行う。具体的には、まず「綾スタグラム」(綾がその場所で感じたことを写真と文章で表現したと仮定するもの)の投稿画像を見て、そのときの綾の心情を想像し、グループで話し合う。その際には、文章の叙述に着目し、前後の場面の様子や心情を踏まえて考えるようにする。また、場面ごとに一次で考えた「なぞ」についても同様に話し合う。「なぞ」について話し合うことを通して、綾の変化や物語の表現の効果などについて考えを深めることをねらう。そして、グループで話し合ったことを基に、「綾スタグラム」の投稿画像に綾の音声を入れるとしたらどのような内容がふさわしいか考える活動を行う。音声は、画像に合わせて録音しておき、場面ごとにつなげると、たずねびとの音声付きスライドショーができ上がるようにする。話し合いから音声の作成までを、グループで行うことで、児童が主体的・協働的に学習に取り組むことをねらいたい。音声を考えるにあたっては、叙述を基に綾の心情を的確に捉えたり、表現の効果に着目しどのような効果があるか理解したりする必要がある。また、

考えたことを表現するために、どのような言葉がふさわしいか語感を意識することにもつながる。この音声付きスライドショーを作成することを通して、児童が主体的に物語を読み、捉えたことを楽しみながら表現することを期待する。そして、綾の変化（気持ち・行動・考え方など）を捉え、場面ごとに学習プリントにまとめていくことで、物語の全体像を想像できるようにする。

三次では、完成した音声付きスライドショーを学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」を使って全員で共有し、ほかのグループのスライドショーを参考にしながら、物語の全体像を振り返る。そして、物語を読んで理解したことを基に、作者である朽木祥さんへ手紙を書く。物語の全体像と、自分自身の経験を結び付けながら手紙を書くことを通して、児童が自分の考えをまとめることができるようにする。

8 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		○平和に関連する本を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「たずねびと」の作者である朽木祥さんの本や、平和に関連する本を読むことで、平和や戦争に対する自分の考えを広げることができるようにする。 	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○物語を読んで、初発の感想を書く。 ○物語を読んで、疑問に感じたことを交流し、単元を通してどんな「なぞ」について考えるか見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぞ」について考える際、綾の心情やその変化に着目している意見を取り上げながら、次の点を確認する。 【単元を通して綾の変化を追っていくこと】 【綾の変化を追っていくことで物語の全体像を想像すること】 ・「なぞ」は、1つに絞る必要はなく、場面ごとにいくつか設定することとする。 	
	2	○綾が会うものや人物を、「たずねびとマップ」に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・綾が出会ったものや人物、場所の名前を「たずねびとマップ」に順番に並べることで、物語の流れをつかむことができるようにする。 ・付箋を使ってグループで整理した後、全体交流して学級で1つの「たずねびとマップ」にまとめることで、物語の全体像を捉えやすくする。 	

	3	○登場人物の人物像についてプロフィールカードを作成し、「たずねびとマップ」にまとめる。	・人物像がどこの叙述から分かるかを確認することで、根拠をもって考えられるようにする。	
二	4	○「綾スタグラム」にそって、綾の気持ちを考え、スライドショーにまとめるという活動の見通しをもつ。 ○スライドショーに活用する写真を、平和記念公園周辺で撮影する。(総合的な学習の時間)	・教師が作成したスライドショーや作成する様子を撮影したものを児童が見ることで、活動の見通しをもつことができるようにする。 ・「たずねびとマップ」にまとめたことを基に、綾に関わる写真をなるべくたくさん撮るように指導する。	
	5	○広島に行くまでの綾の気持ちを考え、「綾スタグラム」に合わせた音声を作り、交流する。	・「綾スタグラム」に投稿された写真(挿絵)に合わせて綾の心情を考える際は、綾の様子や行動、表現の効果に着目し、叙述に基づいて考えるよう指導する。 ・単元の初めに考えた「なぞ」についても、グループで話し合うことで、表現の効果に気付いたり、綾の心情が変化することに気付いたりすることをねらう。	
	6	○広島に着いてからの綾の気持ちを考え、「綾スタグラム」に合わせた音声を作り、交流する。(広島に到着～追悼平和祈念館)	・考えた綾の心情をもとに、「綾スタグラム」の写真(挿絵)に、音声を付ける際は、綾が出会ったものや人によって、綾にどのような変化があったかが分かる音声にな	

	7	○原爆供養塔でおばあさんと出会ったときの綾の気持ちを考え、「綾スタグラム」に合わせた音声を作り、交流する。	<p>るよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情を考えるとところから、音声の作成までをグループで活動することで、自分の考えをもちにくい児童も、主体的・協働的に学習に取り組むことができるようにする。 ・作成した音声付きスライドショーを、毎時間の最後に見合うことで、児童の考えがより広がるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。〔思①〕 【観察・発言・記述】</p>
	8 本時	○橋の場面での綾の気持ちを考え、「綾スタグラム」に合わせた音声を作り、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の最後に、学習プリントで振り返りを行う際は、綾の気持ち、考え方、行動がどのように変わったのかという視点で振り返りを行うよう指導する。 ・努力を要する児童には、「綾」の変化について「これまでは～だったけど、〇〇を通して、～と変わった。」という話型を提示する。 	<p>◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。〔知①〕 【観察・発言・音声・記述】</p> <p>◎進んで人物像や物語の全体像を叙述を基に想像し、学習課題に沿って、考えたことを友達に伝えようとしている。〔主①〕 【観察・発言・音声・記述】</p>
三	9	<p>○各班のスライドショーを共有して、物語の全体像を振り返る。</p> <p>○物語を読んで理解したことを基に、作者の朽木祥さんへ手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドショーに綾のどのような変化が表現されているかという視点で振り返るよう指導する。 ・手紙を書くことを通して、物語の全体像や人物像などから、自分が考えたことをまとめて、表現することができるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。〔思②〕 【観察・発言・記述】</p>

9 単元のゴールの姿

- ・私は、全国の小学5年生がこの「たずねびと」を読んでくれてうれしいなと思いました。理由は、広島のことを綾のように知ってくれる人が増えるからです。綾はポスターで見た同じ名前の楠木アヤを探しに広島を訪れ、ほね組みがむきだしのドームや資料館の展示品、おばあさんとの出会いを通して広島で起きたことを知り、橋の上からの川の見え方も、ただの川だったのが、たくさんの人が亡くなったり、復興を見守ったりしてきた川だと思うようになりました。だから、この「たずねびと」を読んだ全国の子どもたちが広島に来て平和について考えてくれたらいいと思います。私も、今まで聞いた被ばく体験談や、本川小学校平和記念資料館のことなど大切にしたいことがあるので、平和についてもっと深く考えていくようにします。
- ・綾は、広島を訪れたことで原子ばくだんの被害やおそろしさを知り、消えてしまった町、名前ではない人々、名前でさえない人々、数でしかない人々、数でさえない人々のことを忘れてはいけなかったと思います。私は、5月に原爆死ぼつ者名ぼ風通し作業を見学に行ったとき、名前が分かる人がこんなにもいるのかとおどろいたことを思い出しました。でも、名前が残っていない人や、数にも入らない人までいることを、「たずねびと」を通して再確認しました。私は本川の子どもとして、本川に残された原ばくい構や被ばくした人々の思いを、自分の言葉でしっかり伝えていきます。そして、綾のようにこれからも熱心に平和学習に取り組みます。

10 本時の学習（第二次8時）

(1) 目標

橋の場面での「綾」の変化を捉え、物語の全体像を想像することができる。〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 「たずねびとマップ」を基に、本時のめあてを確認する。	・時系列に沿って振り返ることで、本時の場面について見通しをもつことができるようにする。	
めあて 「綾」がどのように変化したのか考え、スライドショーの音声を作ろう。		
2 橋の場面の範読を聞く。	・綾の気持ちが分かる叙述に注目しながら聞くように指導する。	
3 「綾スタグラム」の画像に合わせて、班で綾の気持ちを想像したり、「なぜ」について考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写に着目することで、綾の気持ちを想像できるようにする。 ・交流する際は、どの叙述からそう考えたのか理由を明確にして伝えるよう指導する。 ・場面ごとに考えておいた「なぜ」に迫る話合いをすることで、児童が表現の効果に気付いたり、綾の心情について考えを深めたりすることができるようにする。 ※努力を要する児童には、「綾」の変化について「これまでは～だったけど、〇〇を通して、～と変わった。」という話型を	

<p>4 班でスライドショーの音声をつくる。</p> <p>5 作成したスライドショーの音声を聞き合う。</p> <p>6 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>広島に来て、様々な場所や人と出会うことで、綾の平和についての考え方が変わり、綾の川の見え方も最初と最後で変化したことが分かった。</p> </div>	<p>提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、本時の「綾スタグラム」に綾の音声を入れるならどんな内容になるか考えることで、「綾」の変化を捉え、物語の全体像を想像することができるようにする。 ・これまでの場面を振り返り、スライドショー全体の流れを意識して作成するよう指導する。 ・自分の班の音声と内容を比べながら聞くことで、綾の変化について考えを深めることができるようにする。 ・振り返りを行う際は、綾の変化に着目して学習プリントに記述するよう指導する。 	<p>◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。</p> <p>〔思①〕【観察・発言・記述】</p>
--	--	---

1 1 板書計画

ふり返り

スライドショー音声のポイント

ふり返りのポイント

たずねびと

朽木 祥

めあて 「綾」がどのように変化したのかを考え、スライドショーの音声を作ろう。

【橋の場面】

「なぞ」

きれいな川はきれいな川でしかなかったというのはどういうことか？

- 資料館や祈念館、おばあさんとの出会いで、川に対する見方が変わったから。
- 当時の広島がどんな様子だったか知り、この川でどんなことが起きたのだろうと想像しているから前とはちがう。
- 原爆のことを知り、アヤちゃんのこととも忘れないでいたいという気持ちになっていることを表している。

第5学年 国語科と平和教育のつながり

国語科
(文学的な文章)

物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

「カレーライス」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・児童が主体的に活動に取り組み、登場人物の心情の変化や物語の全体像について考えることができるように、台本作りを言語活動に設定する。本文の叙述を基に自分の経験を踏まえながら台本のせりふを考えたり、ト書きを加えたりすることによって、自分の考えをもち、伝え合う。
- ・班で活動することや、学級全体で見合うことで、感じたことや考えたことを共有し、認め合う。

物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

「たずねびと」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・叙述を基に綾の心情を捉え、音声付きスライドショーを作ること、主体的に読み、考えたことを楽しみながら表現し共有することで、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く。
- ・「たずねびと」の作者の本や平和に関する本を読んだり「綾」が巡った場所を実際に児童が巡ったりすることを通して、自分の考えをもち、考えたことを作者に手紙で伝える。互いの手紙のよさを認め合い、考えを広げる。

すぐれた表現に着目して読み、物語のみりよくをまとめよう

「大造じいさんとガン」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・児童が考えた「なぞ」を中心に学習計画を立て、物語の魅力に迫ることで、児童が主体的に自分の考えをまとめ、伝え合う。
- ・物語の魅力を本の帯にまとめる言語活動を設定し、人物の心情や場面の様子を表す情景描写やその効果について、自分の考えを伝え合い、互いの意見や感想のよさを認め合う。

平和を伝える意味を考えよう

「とうろう作り」(図画工作科)

- ・平和の願いをこめてとうろうを作ることによって、平和について自分のこととして考え、その思いを伝えることができるようにする。「平和な世界にするために今の自分にできることは？」と児童に問いかけ、その思いをとうろうに書く。

「原爆死没者名簿風通し作業の見学」(総合的な学習の時間)

- ・原爆死没者名簿風通し作業を見学して、なぜそのような行事が行われ続けているか、どのような気持ちで作業を行っているかについて考え、様々な立場の人々の思いを知る。

「広島市の復興と人々の願い(平和ノート)」(道徳科・国語科)

- ・被爆によって差別を受けた被爆者の思いを考慮することを通して、戦争の非人間性に気付く。
- ・壊滅的被害を受けた広島で、命の水を守ろうと必死に働いた堀野さんの思いを考える。
- ・広島市の復興の過程を理解し、これからの広島の担い手として、今の自分にできることや平和への思いを意見文に表す。

「原爆ドームの絵」(図画工作科)

- ・原爆ドームが語るものは何か想像し、自分の平和への思いを重ねて表現する。

「スライドショーに活用する写真を撮ろう」(総合的な学習の時間)

- ・「たずねびと」で活用する写真を、平和公園周辺で撮影し、「綾」の思いを考える。

「説明活動に挑戦しよう」(総合的な学習の時間)

「ピースボランティアの方のお話を聞こう」(総合的な学習の時間)

- ・平和記念資料館のピースボランティアの方々の説明を聞き、被爆遺跡について説明する際には、その遺跡についての説明だけでなく、その人の思いについても伝えることを知る。自分たちの説明活動の際にも生かす。

「長崎の被爆について知ろう」(総合的な学習の時間)

- ・広島だけではなく、長崎にも原爆が落とされたことから、長崎の人々の思いを知ることによって、様々な人々の考えに触れる。

他教科等